

## 令和 8 年度第 1 回焼津市認知症対策連絡会議 議事録

1 開催日時 令和 8 年 7 月 7 日（火）18 時 30 分～20 時 00 分

2 開催場所 焼津市役所本庁舎 1 階 会議室 1 B

### 3 出席者

#### （委員）

新井恵子委員（会長）、豊山弘之委員（副会長）、深沢直樹委員、天野雄一郎委員、丸山敏彰委員、五十右直委員、小林一之委員、林綾子委員、内野紅委員、小谷幸代委員、高田琴恵委員、酒井直樹委員、夏苺直己委員

#### （事務局）

飯塚隆晴高齢者福祉課長

※以下、地域包括ケア推進担当

大畑敦志主幹、松村美代子主査、後藤翔太主査、萩原葉子看護師

※以下、地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）

北部：篠宮聡志、中部：竹下千穂、南部：五十右億子、山田隆弘、大井川：桶川麻保

※以下、認知症疾患医療センター

焼津市立総合病院：星華、村松眞智子、やきつべの径診療所：寺坂久仁子

### 4 内 容

#### 開会

（司会より開会宣言）

#### 挨拶

（会長挨拶）

#### 自己紹介

#### 報告事項 （1）令和 7 年度認知症施策の取組結果、令和 8 年度の認知症施策の取組予定について

（事務局より説明）

質疑・意見なし

#### 報告事項 （2）令和 7 年度認知症疾患医療センターの取組について

（事務局・委員より説明）

質疑なし

#### 協議事項 （1）認知症施策推進計画の策定について

（事務局・委員より説明）

会長                   ただ今の説明に関して、お一人ずつご意見をいただきたい。

- 副会長           やはり、どうしてもカテゴライズしてしまいがちだが、ご家族の関わり等は非常に多種多様である。本人は処方の内容や自分の病気のことを分からないまま薬局に行くのが現実かと思う。焼津市は比較的家族で住んでおり、ひとり暮らしの認知症の人は他の市町より少なく、ご家族がみているケースが多い点では、比較的恵まれた地域かと思う。
- 委員           行政が認知症施策をこんなに行っていることを全く知らなかった。医療従事者としても非常に困ってきている状況。これらを進めていくには、まずは現状を早期に把握していくということを踏まえた上で、認知症になったらどうしていきいたかをヒアリングしたとのことであるが、「認知症になってもこんな良いこともある」というような考えを持ちながら、行政とともに取組を進めていく中で、少しでも助けになるような意見が言えたら良いと思う。現状が市民にうまく伝わり、これからこうなるということを市民に知らせていけたらと思う。
- 委員           策定については、行政の方は大変な思いをして作られているかと思う。愛称もスローガンも、少し長いとも思うがよくできていると思う。毎回苦言みたいなのを言ってしまうているが、最近、認知症の人が家族と来院することが多く、その中で家族がすごくイライラして当たっているような言い方をしているケースが多い。そういう家族への支援がきちんと行き届くと良いと思う。
- 委員           はっきり申し上げて、複雑でよく分からないため、シンプルにできないだろうかという印象を受けた。スローガンについては、少し長いが良いスローガンだと思った。
- 委員           まとまっていて良いと思った。私の立場上、基本施策4の意思決定・権利擁護について、2点ほど説明させていただく。意思決定支援は、最近重視されている考え方で、推進しているところである。私たち成年後見支援センターでは、「全ての人には意思がある」という考えの下で取り組んでいくということで、私たちも様々な場所で意思決定支援の考え方について取組を進めている。こちらの計画とも一体的に進めていければ良いというのが一つ。それから、現在民法や社会福祉法の見直しが図られている。成年後見制度では、ざっくり言うと、やめられる制度にするということ。身寄りのない高齢者等の問題では、国の制度として受け止めができるよう改正された。日々の成年後見の相談の中で、身寄りがない方が認知症になり、たちまち生活が壊れてしまう現場を目の当たりにしている。虐待を受けているなども含め、もっとその人らしい生活ができるようにというところもあるが、それが難しい生活が送れない一定数の人に対し、権利擁護が図られているか、最低限度の文化的な生活を送ることができているかという視点も必要だと考えている。そのような部分も、この計画と一緒に対応していけると良い。
- 委員           スローガンについて、「みんながチーム」とある。こちらを広めていく、実践していくために必要なこととして、困っている当事者と相談業務を行う仕事をしているため当然なのだが、当事者以外の方はこれからなり得る可能性もあるし、身近な病気であることを市民の皆様周知していくために、様々な形で市民の目に付く所で取組めればと思う。市役所の3階に当事者のポスターがあったが、1階、2階では見たことがない。やはり一般の人の目に付く所に、スローガンや本

人、家族会の方、専門職のメッセージを配置すると良いと思う。市役所に限らないが、目で見て身近に感じられるようになると良い。また、小学生に会う機会があり、認知症について知っている、学校でやったという話を聞く。小学生に限らず中学生・高校生などにも認知症について学校で教わる機会などが広がって、スローガンが掲げる目標に近づいていけたら良いと思った。

委員

基本施策5について、色々とお入りいただきありがたい。事業者としても引き締めて進めていきたいと思う。今後はICTを活用しながら、医療・福祉などのそれぞれの事業所が連携していくことも計画されていると思うので、そういったところも活用しながら、今までの経過がきちんと分かって支えられるようになると良いと思った。「みんなでチーム」という言葉がとても良いと思っており、私たち事業者も、介護者を一人にしないことをとても大切に思っている。これは介護職も同じである。一人にならず、チームで認知症の人を支えるという考え方で取り組んでいるので、市全体でチームを作っていくことが伝わってきて良いと思った。

委員

日々色々な方と関わらせていただいているが、やはり本人はもとより、ご家族も様々な方面で苦しまれているところがあると感じている。先日、初めて地域ケア会議に参加したが、中でも地域の方の目は大きいと感じた。民生委員をはじめ、地域の方の目や声は支えになったり、そこから見えてくる課題があると感じた。だからこそ地域との連携、そして認知症に対する理解を深めていく意味では、啓発活動が重要と感じている。事業者だけでは事業者の主観でしか見えてこないもので、社会的背景や地域の状況等を踏まえて地域全体で支えていく、スローガンにある「みんながチーム」というものにつながってくると感じた。

委員

細かく計画を立てていただき、ありがたいと思う。次の会議で諮られる計画をまた確認させていただく。スローガンにある「みんながチーム」というのが良いと思う。認知症の人に何かしてあげるというイメージでないところや、勇気を出して診断を受けた方々が孤立したり、肩身の狭い思いをすることのない地域になれば良いと思う。

委員

現行のほほえみプランに比べて内容がとても細かくなり、前進したなど感じる。特に変わったポイントとして、28ページの新計画の検討において、基本的な姿勢が設けられて、そこに「家族等」が入ったことが嬉しい。一つ要望としては、家族等の基本的な姿勢の中に「心配なときや困ったときに、自分たちだけで抱え込まず、早めに専門機関や周囲に相談する。」という文言があるが、家族等に聞くと「誰に・どこに相談したら良いのか分からず、相談前に行き詰まってしまう」のが現状である。認知症の人に対してきつい言葉をかけてしまう家族がいるのは、何を言っても分かってくれないという思いがあるためである。私の経験上、特に初期の認知症状態のときはそれらが強く出る。そのような場合に、気軽に相談できる体制をまず作っていただきたい。そういう気持ちになってストレスを抱えてしまうと虐待行為につながってしまうし、私も、何度言っても理解してくれず、日々の忙しい中で一生懸命対応してそのようなことがあると、どうしても怒ってしまった。そういうことがないように、言葉だけでなく実際に体制をきちんと作る努力をし

ていただけると嬉しい。私も電話相談をやっていたことがあるが、相談に来るのは認知症状が初期の人が多い。認知症の人への介護についてまとめた本には「怒ってはいけません」と書いてあるが、実際介護に直面した人は「なんで分かってくれないの!」と大きな声を出したり、怒ってしまうことは少なからずある。そして、「怒ってしまったんです」と泣きながら電話をしてくる人が非常に多かった。そのときに比べると、このような文言が載ったことは行政も含めて前進したとを感じるが、載っただけではなく、初期の認知症状の対応に苦しんでいる介護者を拾い上げて、気持ちを収めてもらえる方法をもう少し考えていただけると良いのではないかと思う。

委員

施策としてはよく練られているなと思うが、具体的なイメージがわきにくい。施策の方向は分かるが、「こういうときにどうしよう」といった、施策の下にある項目が整理されていくと良いのではないかと思う。チームオレンジなども、もっと具体的になると良い。また、気になっているのは施策5の早期発見や予防の部分である。スクリーニングで判定を受けた人がどのくらい受診して、介護保険や支援につながっているのかという頻度やアウトカムがもう少し分かると良いと思う。私は介護保険の審査に携わっているが、非該当になるような人をどこで案内できるか、また、認知症状が進みリハビリが必要になる患者については、ある程度エビデンスがあって実施されているリハビリなどもあると思うので、その辺を市や医師会で協力して取り組んでいただきたい。運動のプログラムがあるという話をするに興味を持つ患者もいるが、どこでそのような教室があるのかと聞かれると、私は詳しくないためうまく案内ができない。リハビリや行動療法などの様々なプログラムにおいて、定期的で開催している場所があるなど、参加する方向性に持っていくやすくなるよう、検討し具体化していくような機会があったら良いと思う。

委員

2点お話ししたいと思う。まずはスローガンについて、「あったかオレンジプラン」については良いと思うが、「オレンジあったかプラン」に変えてはいかがか。オレンジケアパスなどもあるので、「オレンジ」で色のイメージを与え、そこからあったかを真ん中に加えるとニュアンスが変わってくると思う。どちらが良いかは感性の問題なのでお任せする。AIに聞くなどしてみしてほしい。次に、「認知症を正しく理解し、人と笑顔につながるまち 焼津」というスローガンは良いが、長いと思う。「認知症を正しく理解し、人が笑顔につながるまち」や「認知症を正しく理解し、笑顔につながるまち焼津」などであれば、また違ってくると思う。これもAIに聞いてみても良いと思うが、ご検討いただきたい。前回の会議では、国の基本施策が7本だったのを焼津市では6本にまとめるということで、今回このように提示していただいた。基本施策1から4は良いが、5は色々入っていて長すぎる。認知症の予防、早期把握・早期支援は重なる部分があるのではないか。問題は、保健・医療・福祉・介護サービス等との連携と、認知症の予防の2つが入っているということである。キーワードを同時に2つ挙げると「予防」と「連携」で、これらをまとめて入れると、ぎゅうぎゅう詰めになってしまうので、基本施策5、6で分け、基本施策5を連携、6を予防とするとまとまるのではないか。国の基本

施策5のサービス提供体制の整備と、6の相談体制の整備について、サービス提供体制と相談体制の分野は違うが、どちらも「整備」という点から、「連携」という言葉でまとめられるのではないかと。そして、国の基本施策7の認知症の予防等をそのまま基本施策6として置くと、ウェイトも変わってくると思う。「予防」と「連携」を独立させていけば良いと思う。

会長

事務局から何かコメントはあるか。

事務局

本日、名称と6つの基本施策について決定できればと思ったが、先ほどの委員のご意見を伺って、もう一度内容を精査した上で、8月末から9月上旬にかけて大枠の素案をつくり、その経緯の説明も含めて皆様に提示させていただき、9月下旬の次回会議で改めてお諮りさせていただきたい。

先ほどの委員から意見をいただいた相談窓口の件について、本日追加で配付したアンケート調査結果に、認知症に関する相談窓口を知っているかという質問があるが、「はい」と回答した人が27.3%、3割弱という結果となった。一般の高齢者を対象としたアンケート調査のため、元気な人は実際に認知症にならないと、なかなかそういった相談窓口につながらないという課題があることが分かる。認知症だけでなく、高齢者の相談窓口の認知度も十分ではなく、地域包括支援センターとともに工夫しながら認知度向上を図っている。今後も相談窓口の周知を図っていきたい。

委員

認知症についての相談を、社会福祉協議会の電話相談室を借りてやっていたことがあるが、次第に相談件数が減少した。なぜかという、地域包括支援センターが相談を受けるようになったためである。その後も件数が減っていき、1日いても相談はほとんど来ないという状態となったため、相談窓口をやめた経緯がある。しかし、その後地域包括支援センターから、相談に乗ってもらえないかという話が来るケースや、ケアマネジャーから聞いたということで個人から話が来るケースがある。地域包括支援センターで対応することは良いことだが、私のところやひまわりの会なども相談をいただければ対応できると思うので、そういった場所も利用して相談件数を増やすことも大事ではないかと思う。追加資料の介護支援専門員アンケート調査についても目を通したが、「利用者の状況について相談できる人がいない」というケースが非常に多い。そういった方がいるということは、まだ施策で拾い上げられていないということだと思う。私は、相談窓口はたくさんあればあるほど良いと思うし、最近、他の自治体では介護者が本人を傷つけてしまったという話を聞いた。焼津市において、虐待の問題等も含めてそういうことのない、やさしい、笑顔でつながる市にしていきたいと思う。地域包括支援センターだけで相談を受けるというのは大変なこともあると思うので、他で利用できる機関等を考えてみていただけたらと思う。

会長

このスローガンに向けて取り組んでいく中で様々な課題があるが、そういった現状を市民がしっかりと理解しておくことで、困りごとの早期解決につながるのかなと思う。このアンケート調査結果報告書は市民に向けても報告されるとのことなので、これらのように、また市民に知っていただく機会が設けられるよう工夫していただければと思う。事務局はいただいたご意見を参考に、策定を進めて

いただければと思う。

以上をもって、本日の議事は全て終了とする。進行を事務局にお返しする。

事務局

先ほども説明があったが、もう少し具体的にしたものを次回またお示しできればと思うので、お願いしたい。次回開催を9月29日（火）に予定しているが、詳細については追ってお知らせさせていただく。

閉会